



## 欲望の経済

令和6年8月5日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

欲望は制限がない。今日の経済の悪癖である。しかし倫理的自己はその経済の本来の健全性を与えるのである。

これらは社会との共生や責任という企業理念は、社会とともにした、正しい企業の構築を与えるのである。

これらは企業が利益を追求することへの警鐘であり、正しい社会責任とともにした企業の健全性は必ず存在するのである。

これらは企業構築が、相互利益という合意において社会との共生を提案できるものである。

これら相互利益の循環は社会の発展を与え、さらに企業の発展を可能とできるのである。

これら倫理的向上は社風を新たに求め、それら開かれた企業の健全性はその発展や進歩という現実を共有できるのである。

これらは欲望と競争というルールから降りることは、企業が自らの目的を追求することができるのである。

これらは生存要求という原始的本能から、知的生産性と理性という新しい現実への転換を提案できるのである。

また社員意識の共有は、企業の正しい使命の共有を求め、これら意識がそれに伴う企業現実の構築を実現するのである。

これらは明らかに企業の向上であり、故に優れた現実を企業に与えることができるのである。

経済における意識とコンセンサスの転換はこれら現実を必ず可能とできるのである。